

健やか

紙上 診察室

子どもがてんかんを患っています。月に何度も大きな全身のけいれんを起こし、薬の効果も十分ではありません。以前、脳外科の開頭手術による治療が可能かどうか検査を受けたことがあります。最近、迷走神経刺激法という治療が日本でも始まり、手術ができなかったてんかんの子どもにも有効と聞きました。どんな治療法でしょうか。

(鹿児島市・M)

花谷 亮典 講師

(鹿児島大学病院脳神経外科)

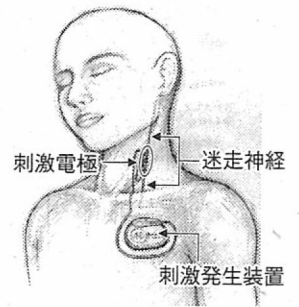


迷走神経刺激療法(VNS)は、首の横にある迷走神経を刺激することによって、てんかん発作の回数を減らしたり、発作の程度を軽くしたりする治療法です。海外では有効性と安全性が確認され、世界70カ国で5万人以上が使用しています。日本では昨年7月から使用可能となりました。

てんかんのうち、薬でうまくコントロールできないものを「難治性てんかん」と呼んでいます。VNSはてんかん発作の型や年齢に関係なく、小児から大人まで、すべての難治性てんかんを治療の対象としています。しかし、開頭手術のように発作を完全に止めることは期待できません。手術で根治が期待できる患者さんには開頭手術が行われ、VNSは開頭手術の対象にならない患者さんに行います。VNSの最大の効果はてんかん発作の回数を減らすこと

迷走神経を刺激し軽減

難治性てんかん



にあります。個人差がありますが、治療を2年続けると、平均で約半数の患者さんの発作回数が半分以下に減ると報告されています。

また、刺激を長期間継続するにつれ効果が徐々に高まるという特徴もあり、刺激を5〜7年ほど続けると、発作が3割程度まで減ったという報告もあります。さらに、記憶力の改善、感情の安定化、日中の眠気の消失、小児では知的発達の改善などの副次的な効果もあります。

手術法としては、まず首の左側の皮膚を約5センチ開し、左頸部を通る迷走神経に刺激電極を巻き付けます。刺激発生装置と刺激電極を結ぶリード線を皮下に通し、左胸部の皮下に刺激発生装置(バッテリー)を埋め込みます。イラスト参照。

全身麻酔が必要ですが、VNS手術は開頭手術に比べると、危険性や身体への負担が少なくて済みます。手術の合併症としては、声のかすれ、一

左胸部の皮下に刺激発生装置を埋め込んだイメージ図(藤元早鈴病院・馬見塚勝郎医師作成)

時的な不整脈、異物を埋め込むことによる感染などがあります。刺激治療中の副作用としては、声質の変化、せき、飲み込みの困難などがありますが、刺激を弱めることで改善しますし、治療を続けると発生率は減少します。

VNS手術でも、開頭手術と同じように、てんかんに対する術前評価をしっかりと行う必要があります。したがって、この手術を実施できるのは、日本てんかん学会専門医の資格も有する脳外科医で、この治療の技術講習を受けた者のみと規定されています。南九州地方では鹿児島大学病院脳神経外科(鹿児島市)、藤元早鈴病院脳神経外科(都城市)で受けられます。

相談は詳しい症状と病歴に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を書いて社会部「紙上診察室係」まで。紙面では匿名で紹介します。あて先はページ下を参照してください。